

いきいき終活セミナー



去る11月3日（日・祝）の午後1時半～徳成寺において、いきいき終活セミナーを開催致しました。

前日は、災害級の大雨が降る地域もあるとの予報も出される大雨の一日でしたが、この日は打って変わって秋晴れのがすがしい一日になりました。

長年続けて参りました「いきいき終活セミナー」ですが、久しぶりに私自身登壇させて頂きました。これまでは、どなたかもう一人講師をお招きしてのペアでしたが、初めて単独で担当致しました。

今回は、「家族葬の『あるある』に学ぼう」と題してお話させて頂きました。耳慣れないテーマですが、最先端のテーマである自負はあります。コロナ禍以降、家族葬というキーワードが一層定着し、皆さんの中に『家族葬』でお願いします」という方が多く見受けられるようになりました。「家族葬」で小規模な葬儀であることをアピールする方は多いのですが、実際には何のどこが小規模なのか、ご本人の中でハッキリしていなくて、業者さんのペースに巻き込まれ思わぬ大出費になった方を見たり聞いたりしてきました。

では一体何が問題だったのでしょうか？お身内を失った悲しみから冷静な判断の出来ない状態に乗じて、あれもこれも必要ですと言わんばかりのセールストークを仕掛ける業者さんから逃れる術は、たいていの方はなかなか持ち合わせておられません。その意味では残念ながら、非情なようですが事前の備えが万全ではなかったと言わざるを得ません。



多死社会を背景にして、色々な業者さんが次々と葬儀業界に新規参入し、言うなれば「葬儀」を食べ物にするが如く競争が激化しております。老舗の業者さんも、そのあおりを受けて否応なく対応を余儀なくされています。そこに事前の備えなしに投げ出されるのは、ハッキリ言って鴨がねぎを背負って向かっているようなものです。

そんな方々をはた目に、葬儀に携わる一員として私が出来ることは一体何なのか？考えた結果、皆さんに何とかして「後手を踏まないように」、万が一の時でも、先手を打って自分が納得して執り行えるように必要な知識を公開し身に着けて頂ければと思い、お話し致しました。何なりとご相談下さい。

